

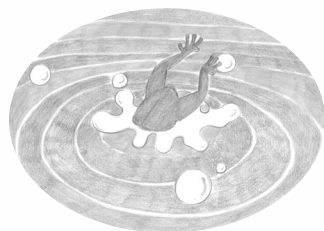
俳句

1年目 ステップ1



おんせい
音声はこちら

ふる いけ かわず と飛び込む みず おと
古池や かわず飛び込む 水の音



まつ お ばしろう
松尾芭蕉

はな なの花や ひる 昼ひとしきり うみ おと
なの花や 昼ひとしきり 海の水音



よ さ ぶ そん
与謝蕪村

よく み 見れば なずな はな さ 咲く かき ね 垣根かな
よく見れば なずな花咲く 垣根かな



まつ お ばしろう
松尾芭蕉

がえる やせ蛙 まける な一茶 いっ さ これにあり
やせ蛙 まけるな一茶 これにあり



こばやし いっ さ
小林一茶



おんせい
音声はこちら

慣用句

1年目 ステップ1

あし ぼう
足が棒になる

あし が ひどく つかれて 思う ように 動かなくなる。



くち おも
口が重い

ひと まえ
人前であまりしゃべろうとしないこと。



した ま
舌を巻く

とても かんしん
ととても感心すること。



あぶら う
油を売る

む だ ばなし
無駄話などをして仕事を途中でさぼる。



みず なが
水に流す

これまでのいざこざなどを、すべてなかったことにする。





《文節のうた》

さよね さよね

「さ」「よ」「ね」をいれて かんが 考えよう

「さ」「よ」「ね」をいれて

し ぜん く き 自然に区切れるところがぶん せつ 文節だ

ぶん せつ 文節は ぶん ちい 文を小さく ひと く き 区切った 一区切り

かい わ ぶん ぶん せつ わ 会話文の文節分けは

かぎかっこが ないものとして かんが 考えよう

さよね さよね

「さ」「よ」「ね」をいれて かんが 考えよう

ぶん せつ い み 文節は意味をこわすことなく、
ぶん みじか く き 文をできるだけ短く区切った
ひと く き 一区切りです。

みぎ れい むつ ぶん せつ 右の例は、六つの文節です。

登 のぼ
つて

さ

み
たいと

ね

思 おも
った

よ

ぼ
くは

さ

こ
んど

ね

富 ふ
士 じ
山 さん
に

さ



おんせい
音声はこちら

ことわざ

1年目 ステップ1

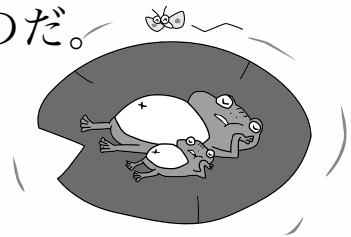
ま か
負けるが勝ち

むり ありそ あいて かに 勝ちを 譲った ほう が 結果
は無理して争うよりも、相手に勝ちを譲った方が結果
は得になる。



こ
かえるの子はかえる

こ ども の 性 質 や 才 能 は 親 に 似 る も の だ。



す じょうず
好きこそものの上手なれ

たい せい そ じょうけん かんが
大成するためには素質などの条件も考えられるが、
好きであってこそ上達する。



くぎ
ぬかに釘

い くら い けん ても て 手ごたえがなく、少しも 効果 がない
こと。



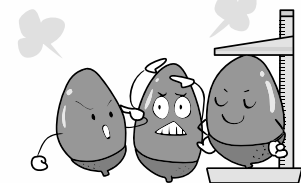
はな だん ご
花より団子

ふうりゅう じつり がい かん ども ない よう
風流よりも実利、外観よりも内容をとることのたとえ。



せい
どんぐりの背くらべ

おな てい ど とく べつ すぐ
どれも同じ程度で特別優れたものがない様子。





春^{はる}過^すぎて
夏^{なつ}来^きにけらし
衣^{ころも}ほすてふ
白^{しろ}妙^{たえ}の
天^{あま}の香^か具^ぐ山^{やま}

(持^じ統^{とう}天^{てん}皇^{のう})

秋^{あき}の田^た
かりほの庵^{いお}の
我^わが衣^{ころも}手^では
苦^{とま}をあらみ
露^{つゆ}にぬれつつ

(天^{てん}智^じ天^{てん}皇^{のう})

